

# 科学で探る こどもの 事故予防策

ポケットブック

—誤飲・誤えんによる事故—



 東京都

そばで見守っていても、  
防ぐのが難しい子供の事故

事故を予防していくためには、  
子供の成長・発達段階に応じて、  
「**危ないところを変える**」という考え方の下、  
子供を取り巻く環境そのものを見直していく  
ことが重要です。

今回、子供の“誤飲・誤えんによる”事故  
について、**科学的視点**から**事故の実態**を  
解明し、**実践的な予防策**を取りまとめました。

誤飲 : 本来飲み込まないものを間違えて飲み込んでしまうこと

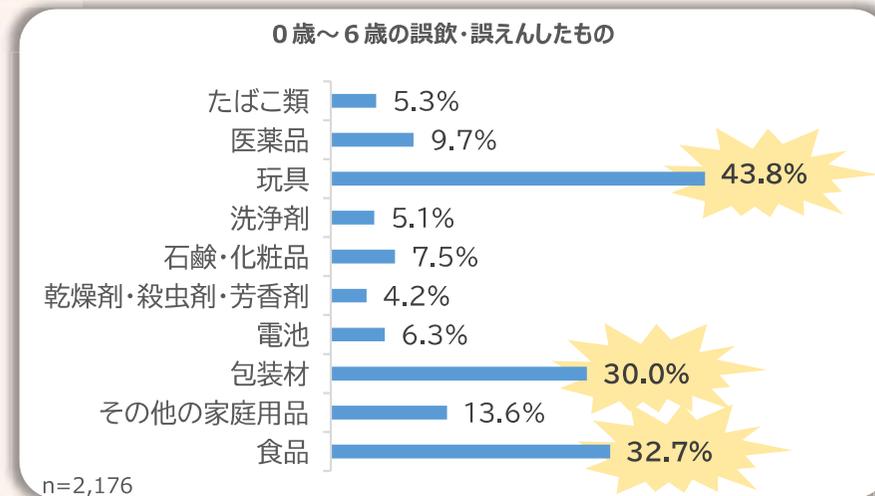
誤えん : 食物などが誤って気管等に入ってしまうこと

## 目次

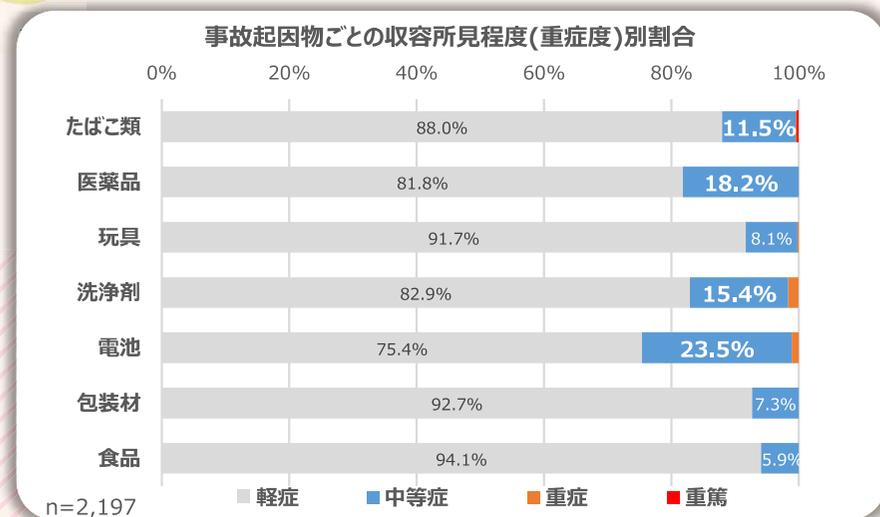
- 子供の誤飲・誤えんによる事故の実態 … 3
- 提言：科学的視点から、誤飲・誤えんによる事故を予防 … 5
- 子供の成長・発達段階ごとの特徴と事故事例 … 14

## 子供の誤飲・誤えんによる事故の実態

子供が誤飲・誤えんした対象として最も多い物は「玩具」で、これに「食品」「包装材」などが続く

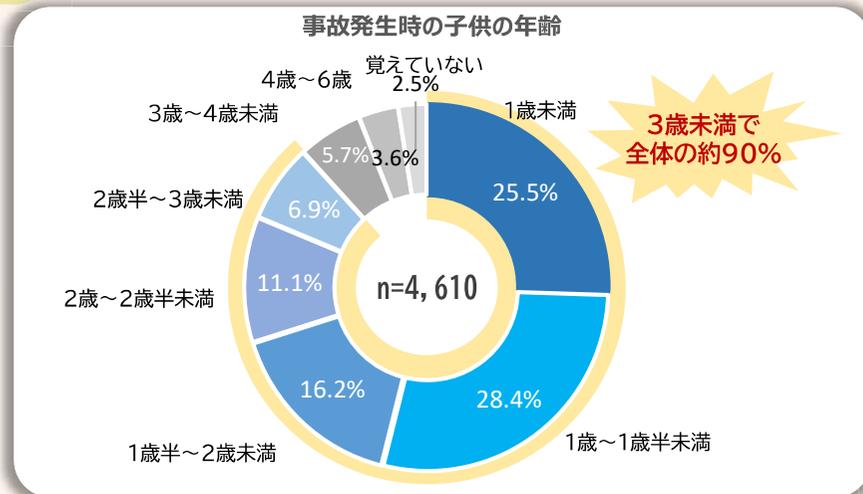


誤飲の事故は軽症が多いが、中でも「電池」や「医薬品」「洗浄剤」「たばこ」では中等症以上の割合が高い

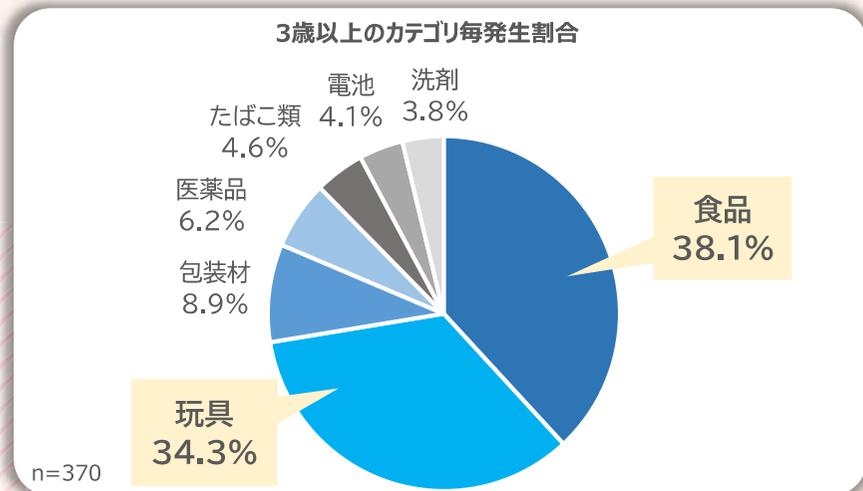


## 子供の誤飲・誤えんによる事故の実態

事故（ヒヤリハットを含む）発生時の子供の年齢は、**3歳未満が全体の約9割**を占める



3歳以上であっても「玩具」と「食品」では多くの事故が発生！  
食材を細かく切って与えても、泣いたり笑ったりした拍子に誤えんする事例もみられる



4

(資料) 日常生活での事故による救急搬送に係るデータ (東京消防庁提供) を基に作成 ※対象期間: 2020年から2023年まで

## 提言 科学的視点から、誤飲・誤えんによる事故を予防

### エビデンス

### 事故予防策

提言 1

130cmの高さに保管していても事故が起きる\*

\* 1歳8か月の子供の例

収納場所の高さに加え、**施錠等の工夫をする**

提言 2

3歳半以降、床の物を拾う等の行動は減るが、**大人が触れた物への関心は高い**ままである

口に入れると危険な物は、**使った後に放置しない**

提言 3

誤えんしやすい食品は**0.1秒で気管に詰まる**

落ち着いてゆっくり噛みながら**食事をさせる**

提言 4

CR包装\*は、誤飲につながる幼児の**行動を約9割防止**する

子供が開けにくい仕組みを**備えた製品を活用**する

\*チャイルドレジスタンス包装 (Child-Resistant Packaging) の略で、小さな子供が容易に開封できない構造を採用することで、誤飲等の事故を防ぐ安全機能付き包装のこと

5

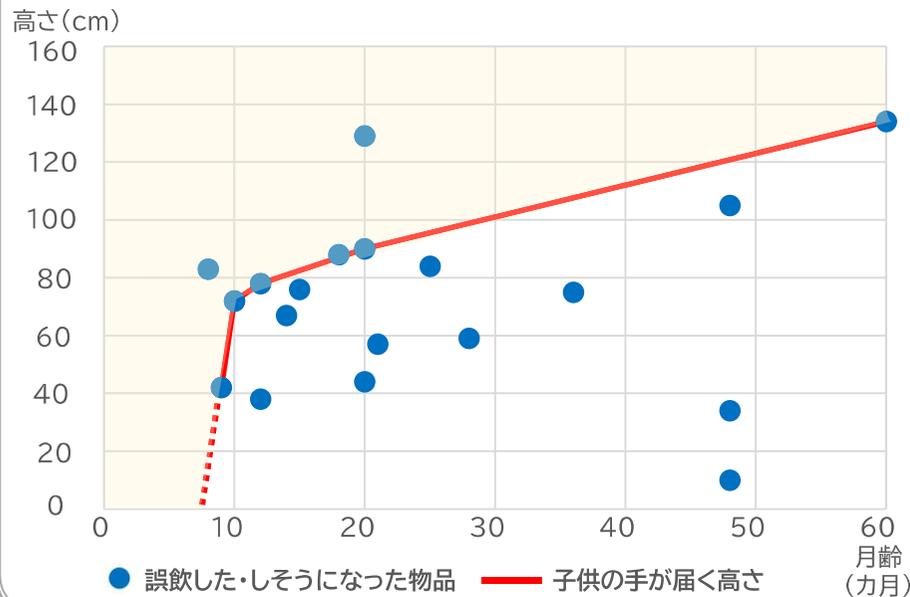
エビデンス

130cmの高さに保管していても  
事故が起きる

- 訪問調査の結果、**子供の手が届かない高さ**※に保管していたにもかかわらず、ヒヤリ・ハットや**事故につながっている**ことが判明

※ 1歳8か月の子供が**踏み台**を使って**129cm**の高さに到達

誤飲した・しそようになった物品の高さと子供の年齢



事故予防策

収納場所の高さに加え、施錠等の工夫をする

- 子供は、**足場になるものを用意し手を伸ばすため、高所に保管するだけでは事故を防ぐことはできない**
- 子供に触れてほしくない物は、**鍵のかかる場所**や、**ベビーゲートの先**など**子供が入れない場所**に保管することが重要

具体的な予防策（例）

医薬品や洗剤等の保管には、**鍵付きの箱**や**ベビーゲート**を活用する

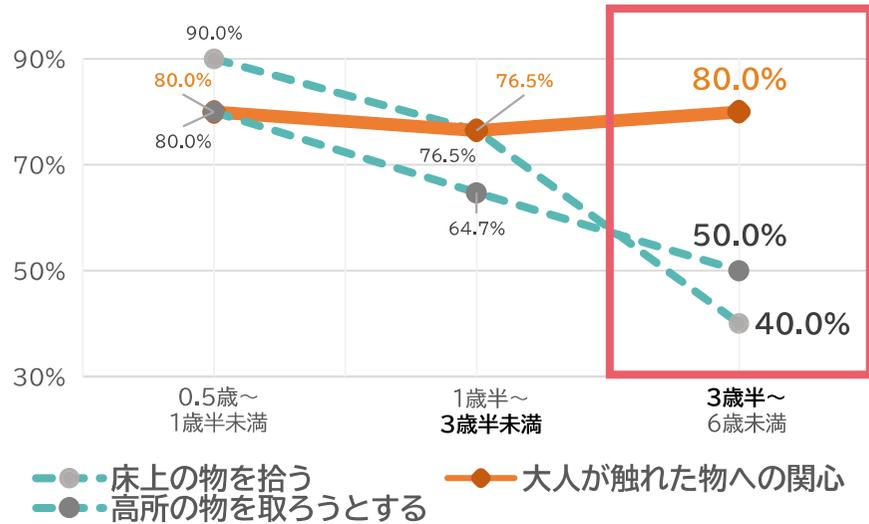


エビデンス

3歳半以降、床の物を拾う等の行動は減るが、**大人が触れた物への関心は高いまま**である

- 乳幼児がいる家庭を訪問し、誤飲につながる子供の行動について聞き取りを実施
- 床の上や高い場所の物を探索する様子は3歳前後を境に減少する一方で、**大人が触れた物に対する興味関心は3歳半以降も高い**ことが判明

年齢区分別の子供の行動特性



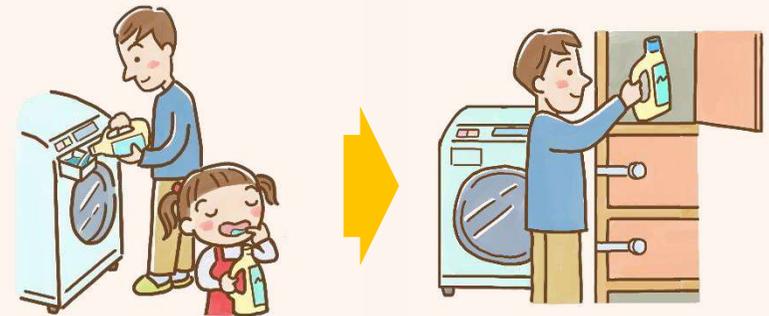
事故予防策

**口に入れると危険な物は、使った後に放置しない**

- 3歳を過ぎても、**保護者や兄弟などが触れた物に興味を持ち**、口に入れてしまう危険性がある
- たばこや洗剤など、子供が使用しないものについても**出しっ放しにせず**、適切に管理することが大切

具体的な予防策（例）

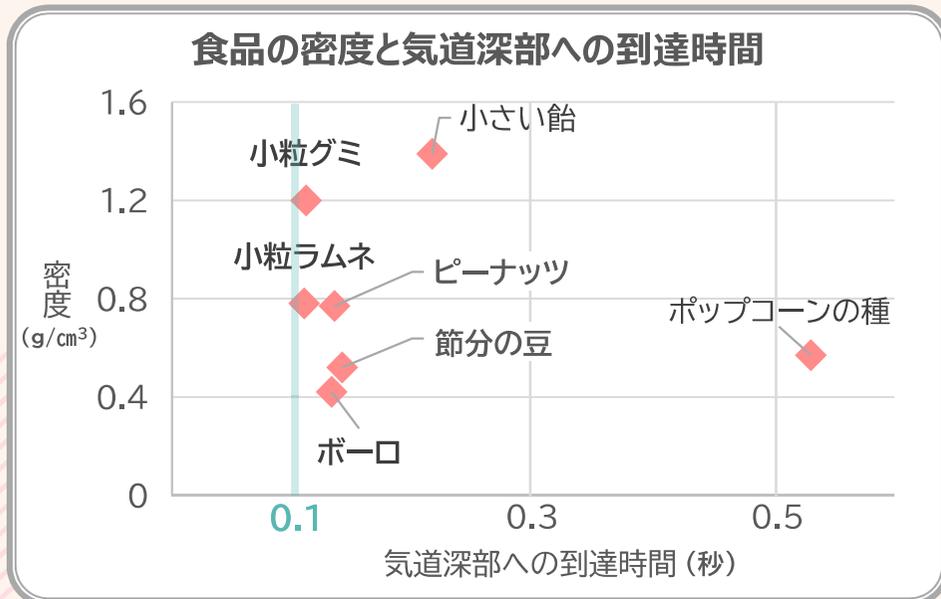
**洗濯用洗剤は使うときだけ取り出し、使用後は施錠できる棚等に片付ける**



エビデンス

誤えんしやすい食品は**0.1秒で気管に詰まる**

- 子供が空気を**吸い込む力**や、食品が**気管の奥に到達するまでの時間**を計測し、誤えんにつながる危険性を**食品別に分析**
- 小粒ラムネや節分の豆などの**小さく軽い食品**は、気管に入り込みやすく、**最短約0.1秒で気道深部に到達**することが判明



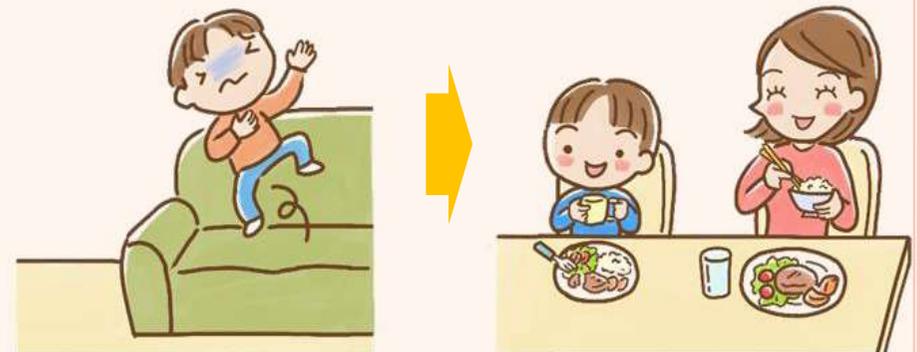
事故予防策

落ち着いてゆっくり噛みながら食事をさせる

- **泣く・笑う**等によって**瞬間的に吸い込む力が高まる**と食品が一瞬で気管に入り込むため、誤えんする前に気づくことは困難
- **立ち歩かず、よく噛んで、落ち着いて**食事をし、**状況に応じて中断**することも必要

具体的な予防策（例）

**食事やおやつは座って食べるようにし、泣き出した場合などは食事を中断する**

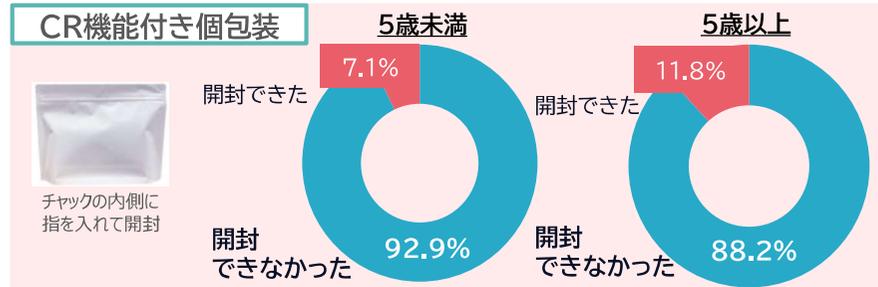
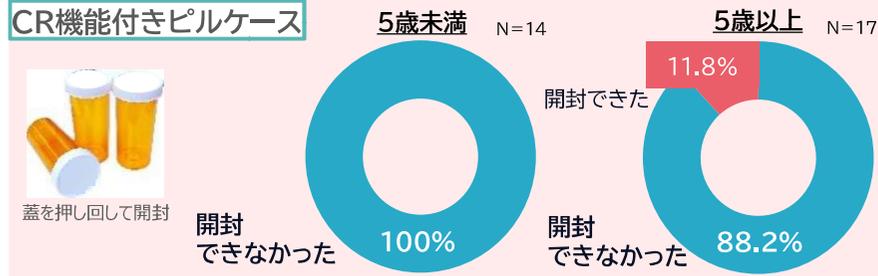


エビデンス

**CR包装<sup>※</sup>**は、誤飲につながる幼児の行動を約9割防止する

- CR機能を備えたピルケース等を子供が開けようとする様子を観察し、**開封に要する時間を計測**
- 5歳前後から開封率が高まるが、全体では**約9割**の子供が**開けることができなかった**

CR機能付きピルケース・個包装の開封率



※ 5歳未満：月齢47～58か月の子供、5歳以上：月齢71～82か月の子供

※ チャイルドレジスタンス包装（Child-Resistant Packaging）の略で、小さな子供が容易に開封できない構造を採用することで、誤飲等の事故を防ぐ安全機能付き包装のこと

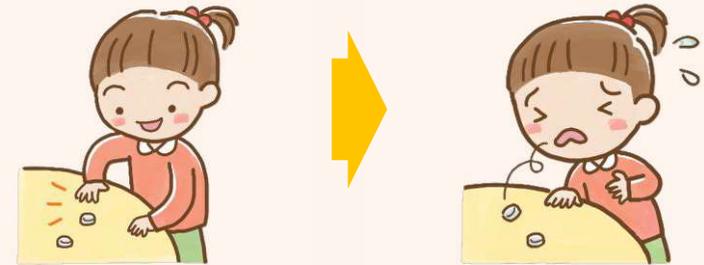
事故予防策

**子供が開けにくい仕組みを備えた製品を活用する**

- CR機能を備えた容器を使用することで、誤飲につながる子供の行動を抑制することができる
- ボタン型電池や医薬品など、飲み込むと重症化しやすい物は、**子供では取り出しにくいパッケージの製品等を活用**することが大切

具体的な予防策（例）

**パッケージに誤飲防止機能が付いた製品や、表面に苦み成分が塗布されたボタン型電池を選ぶ**



# 子供の成長・発達段階ごとの特徴と事故事例

## 子供の運動機能等の目安×都内で発生した事故事例

### 乳児期

(出生～1歳未満)



手の届く範囲の物を  
なんでも口に運ぶ



### 幼児期前期

(1歳～3歳頃)



好奇心旺盛で集中力が持続  
せず、感情の起伏も大きい

### 事例①



床に放置された殺虫剤  
スプレーのノズルを舐めた

### 事例②



イチゴを口に入れたまま  
大笑いして詰ませた

※ 子供の運動機能の目安となる時期は、インタビュー調査  
における保護者への聞き取りをもとに記載

## 事故事例と予防策

### 事例①

夕食の準備中、リビングで  
遊んでいた10か月の子供が  
床に放置された殺虫剤の  
ノズルを舐めた



### 予防策①

床の上に物を放置せず、  
背の低い棚の引出しなどに  
危険なものを保管しない



### 事例②

2歳の頃、細かく切ったイチゴ  
を食べている時に大笑いし、  
イチゴのかけらが詰まった



### 予防策②

落ち着いてよく噛んで食べ、  
泣いたり笑ったりした場合は  
食事を中断する



# 子供の成長・発達段階ごとの特徴と事故事例

## 子供の運動機能等の目安×都内で発生した事故事例

### 幼児期後期 (3歳～4歳頃)



保護者や兄姉を  
模倣して行動する

### 事例③



母親のポーチから薬の  
シートを取り出した

### 事例④



手指操作機能が発達



パッケージを開けて、  
ボタン型電池を口に入れた

※ 子供の運動機能の目安となる時期は、インタビュー調査  
における保護者への聞き取りをもとに記載

## 事故事例と予防策

### 事例③

母親のポーチから薬のシート  
を取り、錠剤を取り出していた



### 予防策③

医薬品は服用時に取り出し、**服用後は鍵付きの箱**  
(救急箱)などに片付ける



### 事例④

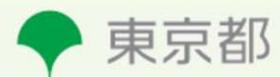
引出しにしまっていた**ボタン型電池**の  
パッケージを開けて電池を口に入れた



### 予防策④

特に危険なものは、**CR包装**  
を活用して慎重に管理する





編集・発行 / 東京都子供政策連携室  
企画調整部 企画調整課

〒163-8001  
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話 03(5388)3812

※ 掲載の情報は令和8年3月現在のものです。  
※ イラスト・画像はすべてイメージです。  
※ 本冊子掲載のイラスト・図の無断複製・転載・  
複写・借用などは著作権法上の例外を除き禁じます。